

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年期作業療法学	OSP33-002	必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	火曜日 10:30~12:30		
授業の目的・概要	老年期障害の作業療法介入を実践するうえで必要な基本的知識を学び、具体的治療介入のポイントを理解し、発想力を養うことを目的とする。なお、授業は遠隔で実施し動画も活用して理解を促し、その後、メディアを通じたフィードバック等により理解を深める。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	老年期および認知症の治療に必要な基本的知識をもとに、具体的な治療介入を展開できる技術を習得する基礎を学ぶ。これまで学んだ老年期および認知症の知識が土台になるため、教科書や配布されたプリント等を丁寧に読み込むことをお勧めする。				
教科書	①高齢期作業療法学 第3版/著：松房利憲、新井健五/医学書院/2016年 ②高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版/著：守口恭子/三輪書店/2017年 必要に応じてプリントを配布する。 「2冊指定」				
参考書	認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第4版/著：佐土根朗 他/編：山口晴保/協同医書出版社/2023年				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	老年期および認知症の治療に必要な基本的知識を理解し、説明できる。			HSU(3)、OT(2)(3)	
②	老年期のさまざまな事例から治療介入のポイントを理解し、応用につなげられる。			HSU(3)、OT(1)(2)(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 加齢に伴う心身機能の変化について学ぶ①	講義	事前学習は教科書の該当箇所を読む。事後学習は講義内容と照らし合わせながら教科書、資料等の内容の理解を深める。	1	
2	加齢に伴う心身機能の変化について学ぶ②	講義		1	
3	老年症候群・廃用症候群について学ぶ	講義		1	
4	身体機能・身体活動の評価について学ぶ	講義		1	
5	フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームについて学ぶ	講義		1	
6	精神・認知機能の評価について学ぶ	講義		1	
7	高齢者心理について学ぶ	講義・GW 発表		1	
8	高齢者にとって夢をもち・生きがいがあり・役割をもてることの意味について学ぶ	講義		1	
9	認知症作業療法の考え方・プロセスについて学ぶ	講義		1	
10	認知症作業療法の生活機能評価について学ぶ	講義		1	
11	アルツハイマー型認知症の評価について学ぶ	講義		1	
12	アルツハイマー型認知症の作業療法支援について学ぶ	講義		1	
13	レビー小体型認知症の評価・作業療法支援について学ぶ	講義		1	
14	前頭側頭型認知症の評価・作業療法支援について学ぶ	講義		1	
15	血管性認知症の評価・作業療法支援について学ぶ	講義		1	
試	定期試験 達成度評価、評価のポイント参照				

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療法学科】

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		90	10	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	40	3	0	0	0	43
	思考・推論・創造する力	40	4	0	0	0	44
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力		10	3	0	0	0	13
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。試験は、授業で学んだ教科書、および発表内容等に基づく問題を出題し、理解度を問う。				定期試験後に答案用紙を開示し、質疑の機会を設ける。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	高齢者へのインタビューを各自が行い、その結果をレポートとしてまとめ提出する。				課題返却時および授業内でフィードバックを行う。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	担当する教員は作業療法士として10年以上の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	テキストと併せて臨床での評価、治療を通して得た知見に基づき講義を展開する。						
そ の 他	大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めません。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。						